

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	総合政策研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 減少傾向にある院生数に歯止めをかける方法を2010～2012年度に検討し、順次、実施に移す。	→大学院生の定員充足率	C	C	C		
2. 総合政策学部・成績優秀者の内部進学者を増やす方法を2010年度中に検討し、実施する。	→総合政策学部からの内部進学者で成績上位50番以内の学生数	C	C	B		
3. 社会人大学院生を増やす方法を2011年度までに検討し、2013年度までに院生数に占める割合を3分の1に増やす。	→社会人大学院生の院生数に占める比率	D	C	C		
4. 留学生の数を増やす方法を2012年度までに検討し、アジア諸国を中心に国の多様化も図る。	→大学院留学生の総数と留学生の国の数	C	C	C		
5. 英語のみで修了可能なコース(国際開発戦略コース)の院生数を2013年度までに10名に増やす。	→英語での修了コース(国際開発戦略コース)の大学院生の数	D	C	C		
6. 「災害復興コース」「一級建築士インターンシップ科目」を新たに設置し、それぞれのコースに所属する院生を5名確保する。	→「災害復興コース」「一級建築士インターンシップ」に登録する大学院生の数	D	C	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	大学院の募集活動を活発化させてはいるものの、入学者数は昨年度より1名増にとどまり、定員充足率は未だ低水準にある。2012年度入学より入試時期を夏季休暇以前に早める措置を行った。収容定員の妥当性についての議論を継続する必要がある。他大学大学院に進学している総合政策学部卒業生および社会人に対してより一層の働きかけが不可欠である。
目標2	2011年度には、3年で学部課程を修了した優秀な学生が、博士課程前期課程に1名進学した。総合政策学部からの内部進学者で成績上位50番以内の学生数は2名である。成績優秀者が国立大学大学院に進学する傾向があり、本学大学院の魅力を具体的に示す必要がある。
目標3	前期課程在籍の院生数に占める社会人大学院生比率は21.9%であり、伸び悩んでいる。研究科の立地条件が制約になっていると思われる。社会人が勉学しやすい環境整備を検討する必要がある。
★ 目標4	留学生は前期課程6名（1か国）、後期課程2名（1か国）である。院生数に占める外国人留学生比率は21.0%であり、在籍者すべてが中国人である。
目標5	英語での修了コースの在籍生は2012年度はゼロである。留学生が中国人に集中していることもあって、英語での修了コースのニーズが開拓できていない。同コースの存在をより強く内外にアピールする必要がある。
目標6	2012年度には一級建築士インターンシップ科目に3名が登録した（2011年度は1名）。災害復興コースは、まだニーズが不鮮明でありコースとしては未整備である。ただし防災をテーマとした修士論文、博士論文を執筆中の大学院生がおり、本年度中には博士学位を取得見込みである。
備考	

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【総合政策研究科】		前期/後期課程	単位	2008	2009	2010	2011	2012	備考
指標1	入学定員	前期課程	名	50	50	50	50	50	・5/1現在
		後期課程		5	5	5	5	5	
指標2	志願者総数	前期課程	人	22	21	31	17	20	・5/1現在
		後期課程		0	2	0	4	1	
指標3	合格者数	前期課程	名	16	18	25	15	15	・5/1現在
		後期課程		0	2	0	4	1	
指標4	入学者数	前期課程	名	12	17	21	13	14	・5/1現在
		後期課程		0	2	0	4	1	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	0.4	0.4	0.6	0.3	0.4	・5/1現在 ・志願者÷入学定員
		後期課程		0.0	0.4	0.0	0.8	0.2	
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	前期課程	倍	0.43	0.38	0.37	0.33	0.36	・5/1現在 ・入学者数÷入学定員
		後期課程		0.44	0.40	0.24	0.28	0.31	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	75.0%	52.9%	52.4%	69.2%	57.1%	・5/1現在 ・一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	
指標8	収容定員	前期課程	名	100	100	100	100	100	・5/1現在
		後期課程		15	15	15	15	15	
指標9	在籍学生数	前期課程	名	37	33	40	37	32	・5/1現在
		後期課程		4	4	2	8	6	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	37.0%	33.0%	40.0%	37.0%	32.0%	・5/1現在
		後期課程		26.7%	26.7%	13.3%	53.3%	40.0%	